

# 組織部速報

2020年2月12日

No.18

## 東京・八王子・水戸地本の東労組からの分裂を許さず、 新生JR東労組と連帯し、JR総連運動の強化をかちとろう!

2月10日、JR東労組定期中央委員会が開催されている只中において、分裂組織「JR東日本輸送サービス労働組合」が結成された。この労働組合は18春闘敗北の総括や不当労働行為に対する闘いの本部方針に従うことができず、組合員に不安と混乱を落とし込むと共に、JR東労組・JR総連の組織破壊を意図したものであり、決して許すことはできない。

JR東労組は18春闘敗北以降、多くの組合員が脱退したことから、脱退した組合員を取り戻すために、12地本一体となって新生JR東労組をめざし取り組みを行ってきた。組合員の信頼を取り戻すのは簡単なことではない。組合員の声を聞き、組合員に寄り添い、職場から運動をつくり出していく以外に道は無い。その取り組みの過程における分裂である。

「JR東日本輸送サービス労働組合」はマスコミ報道では約2000名とも言われ、組合費を低額に抑えることを餌として今後組織拡大をめざすものと思われる。しかしその内実は、国労が分割民営化反対、1047名の解雇撤回を繰り返し求め、闘争団化していったことと同様に、不当労働行為に対して職場闘争で闘うのではなく、労働委員会に解決をゆだねる闘争団と化していくことは間違いない。心ある組合員はそのような組合に心を動かされることは無い。

2月10日に開催されたJR東労組第46回定期中央委員会で「新生JR東労組運動宣言」が採択され、「全地本の新たな総団結の実現」「真実を組合員に伝えることを通じて信頼回復」を目指し新たな一步を歩むことになった。

分裂は組合員を不幸にするだけであり、決して一部役員の感情だけで引き起こしてはならない。そのような組織に未来は無い。

私たちJR貨物労組は、脱退を策した3地本一部役員を許さず、新生JR東労組と固く連帯し、JR総連の強化・拡大を目指し共に奮闘し闘っていくものとする。

また、各級機関においても、物心両面にわたる支援を行うことを要請する。